



カケハシ・プロジェクト（米国） ユダヤ系米国人招へい第2陣（American Jewish Committee）の記録

1. プログラム概要

本プログラムでは、米国ユダヤ人委員会（American Jewish Committee, AJC）が選出したユダヤ系米国人17名が、東京都、京都府、福井県を訪問しました。日本国内での多様な交流を通じて、日本について包括的な理解を深め、日本の魅力を発信するとともに日本と在米ユダヤ人コミュニティとの交流や協力関係を促進し、日米関係を強化することを目的としました。

【参加者】AJC 選出の社会人 15 名及び引率者 2 名 合計 17 名

【訪問地】東京都、京都府、福井県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

1 月 10 日（金曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等

来日までの指定期間 【動画視聴】日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

1 月 16 日（木曜日） ホテル集合

【来日時オリエンテーション】

1 月 17 日（金曜日） 【表敬訪問】イスラエル大使館 駐日イスラエル大使 ギラッド・コーヘン 氏

【表敬訪問】在日米国大使館

広報文化交流部 教育・人物交流担当官 サラ・ペロゾフ 氏

政治部 政治・軍事ユニット次席担当官 ダグラス・フリッター 氏

【交流】日本ユダヤ教団

1 月 18 日（土曜日） 【視察】根津美術館

東京都から京都府へ移動

1 月 19 日（日曜日） 【視察】金閣寺、天龍寺・嵐山散策、錦市場

1 月 20 日（月曜日） 京都府から福井県へ移動

【表敬訪問】敦賀市

敦賀市 市長 米澤 光治 氏

敦賀市 副市長 堤 宗和 氏

敦賀市まちづくり観光部 部長 小川 明 氏

【視察】人道の港 敦賀ムゼウム

福井県から京都府へ移動

【学校交流】同志社大学

1 月 21 日（火曜日） 京都府から東京都へ移動
 【表敬訪問】外務副大臣 藤井 比早之 氏
 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

1 月 22 日（水曜日） ホテル解散

2. 招へいプログラム



2025 年 1 月 17 日【表敬訪問】イスラエル大使館
 駐日イスラエル大使 ギラッド・コーヘン氏



2025 年 1 月 17 日【表敬訪問】在日米国大使館



2025 年 1 月 17 日【交流】日本ユダヤ教団



2025 年 1 月 18 日【視察】根津美術館



2025 年 1 月 19 日【視察】金閣寺



2025 年 1 月 19 日【視察】天龍寺

	
2025 年 1 月 20 日【表敬訪問】 敦賀市 市長 米澤 光治 氏	2025 年 1 月 20 日【視察】 人道の港 敦賀ムゼウム
	
2025 年 1 月 20 日【学校交流】同志社大学	2025 年 1 月 21 日【表敬訪問】 外務副大臣 藤井 比早之 氏
	
2025 年 1 月 21 日【報告会】	2024 年 1 月 21 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人

プログラムのハイライトは日本ユダヤ教団と人道の港敦賀ムゼウム訪問でした。日本のユダヤコミュニティの歴史を詳細までを知ることができ、大変感動しました。

◆ 社会人

外務省と同志社大学の訪問は日本人を知るために、最も重要なプログラムだったと思います。地元の方々とも交流できる機会がもっとあれば、より有意義だったと思います。

◆ 社会人

文化体験だけでなく、大使館などで行政官にお目にかかる機会を得ることができて、とても良かったです。敦賀はとても特別な場所でした。また、京都で竹林を見ることができて良かったです。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 表敬訪問先

訪日団は当市（敦賀市）の自然や歴史、経済等に非常に強い関心を示し、当市としても魅力や現状を再認識できたとともに、インバウンド振興のための貴重な提案をいただきました。また、「人道の港 敦賀ムゼウム」の視察は好評をいただき、杉原千畝氏が発給した日本通過ビザで実際に日本に上陸された方のご子孫の方とも貴重な交流の機会を得られたことにも感謝します。

◆ 交流校生徒

自分の研究や進路について話すと、それについて色々質問してくださいました。今回の交流を通して、イスラエルやヨーロッパ、米国ではなく、「日本」でユダヤ教を研究する意義を感じました。今学んでいる聖書ヘブライ語だけではなく、現代ヘブライ語を学び、将来的にはウルパンに行ってみたいと思いました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

2025 年 1 月 20 日（Instagram） 敦賀港にて。私の祖父は、杉原ビザ（番号 1324）の保持者でした。この命を救うビザは、第二次世界大戦中にリトアニアに駐在していた日本の外交官、杉原千畝氏によって発給されたもので、彼は政府の命令に背いて、ナチスの迫害から逃れるユダヤ人難民に通過ビザを発行しました。 このビザを使って、祖父は日本に渡り、敦賀の人道港に到着しました。敦賀の街は難民にとって重要な避難先となり、地域の人々は戦争の恐怖から逃れてきた人々を温かく迎え、支えました。 祖父の旅は、杉原千畝の並外れた勇気と、敦賀の人々の思いやりの深さを今に伝える、力強い証です。	2025 年 1 月 22 日（Instagram） 杉原ビザ保持者の孫として、この訪問は私にとって非常に意味深いものです。祖父は、杉原千畝の並外れた勇気と無償の慈悲のおかげで、ビザ 1324 を持って日本に避難することができました。敦賀の人道港に到着した彼の物語は、私の家族にとって大切なものです。ここにいることは非常に感動的な経験でした。敦賀を歩きながら、祖父の旅路に深い繋がりを感じ、ここで彼を迎えてくれた親切心と人道的な行為に対して大きな感謝の気持ちを抱きました。今回の訪問を通じて、祖父の遺志を称えることができました。これは決して忘れることのない経験です。



2025 年 1 月 27 日 (Instagram)
東京のイスラエル大使館を訪問し、歴史的な人質解放の停戦合意が署名されたわずか 16 分後に、ギラッド・コーエン大使とお会いしました！まさに歴史的瞬間を目の当たりにした感動的なひとときでした。東京の中心に位置するこの大使館は、イスラエルと日本の二国間関係を促進する上で重要な役割を果たしています。この訪問は、外交と国際協力の力を改めて思い起こさせるものでした。

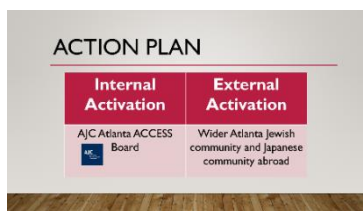


2025 年 1 月 21 日 (人道の港 敦賀ムゼウムの Facebook)
カケハシ・プロジェクト訪日団の皆様にお越しいただきました。このプロジェクトは、日本の外務省が推進している「対日理解促進交流プログラム」のうち、北米地域を対象とした事業で、今回は米国ユダヤ人委員会が選出したユダヤ系米国人 17 名が来日され、ユダヤと日本の関係を巡るため、敦賀を視察地の 1 つに選んでいただきました。
市長表敬では、訪日団の皆様から、市長が考える敦賀の魅力についてのほか、姉妹都市盟約の締結先や交流内容、敦賀の経済活動など、多分野にわたる質問が飛び交いました。また、地方都市である敦賀が多く外国人観光客にとっての目的地となるためにはどういった取り組みが効果的かという市長からの質問に対しては、次々と訪日団の皆様の手が挙がり、SNS の活用やエコツーリズムの推進などの様々な提案をいただきました。
市長表敬終了後は敦賀港へ移動し、館長案内のもと、上陸地点やムゼウム館内をご見学いただきました。ムゼウム訪問を大変楽しみにされていたと、視察中は展示内容についての質疑応答が活発に行われました。
また、今回の訪日団の中に、杉原千畝氏による日本通過ビザ受給者のご子孫の方がいらっしゃり、館内に展示されているビザ発給リストの中にご祖父様の名前を見つけて大変喜ばれている姿が印象的でした。カケハシ・プロジェクト訪日団の皆様、ありがとうございました！

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、京都府、福井県 全4グループ発表

グループ Atlanta



【成果の発表】

◆ ユダヤの歴史、反ユダヤ主義について

- ・ 第二次世界大戦中のユダヤ人
- ・ 杉原ビザ
- ・ 日本政府は反ユダヤ主義を認めない
- ・ JCJ の役割

◆ 日本文化について

- ・ 日本社会における共同
- ・ 集団としての責任
- ・ 秩序
- ・ 敬意
- ・ 人口減少、留学回避による異文化理解の阻害

◆ 外交について

- ・ 若手育成の重要性
- ・ 日本の戦略的価値
- ・ イスラエル寄りになる可能性もある

【アクション・プラン】

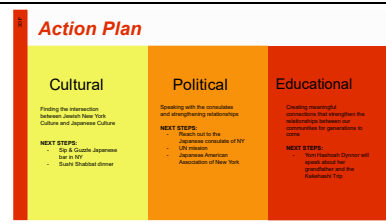
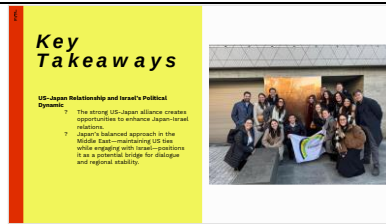
◆ 短期（3 か月）組織内での活動

- ・ AJC アトランタ ACCESS（AJC の若年層向けプログラム）で、今回のプログラムについて報告をします。
- ・ 杉原氏と命のビザについて組織内で話します。

◆ 長期（3～6 か月）外部へ向けた活動

- ・ ホロコースト記念日の時期に「杉原シャバット（ユダヤ教の伝統的な安息日）・ディナー」を開催します。
 - － 和食を提供し、杉原千畝と「命のビザ」プログラムについて来場者に伝えます。
 - － 杉原ビザによる生存者の家族の話を通じ、歴史を身近に感じられる経験を共有します。
 - － 開催にあたり、アトランタにあるイスラエル領事館及び日本総領事館と連携します。
- ・ ユダヤ系高校生のために、ユダヤ系デイスクールやサマーキャンプで活用できる教育ツールを作成します。
- ・ アトランタにある Weber School（ユダヤ系コミュニティ高校）と協力し、杉原千畝氏について解説し、敦賀市での経験を共有します。
- ・ 日米の高校生が互いの歴史や文化を学び、交流するペンパルプログラム制度を立ち上げます。

グループ New York



【成果の発表】

1. 日本は反ユダヤ主義を容認しない
2. 共通の価値：人間性、人生の価値
3. 日米関係とイスラエルの政治的原動力

【アクション・プラン】

文化面：ニューヨークのユダヤ人文化と日本文化の接点を見つけます。

政治面：領事館との対話を通して関係を深めていきます。

教育面：次世代の若者たちが意味のある関係を築いていけるようにします。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）